

中田

平成 26 年度の東京中田会総会



▲菊地会長(中央左)から復興を願って義援金を手渡されました

ふるさとを思い語り合う

東京中田会(菊地拓朗会長)総会が5月24日、東京都新宿区の日本出版クラブ会館で開催され、会員のほか市からは市議会議員など7人が出席しました。総会では、ふるさとの復興を願って、東日本大震災の義援金が菊地会長から佐々木茂光中田総合支所長に手渡されました。ふるさとの懐かしい思い出や近況などを語り合った懇親会。サプライズ企画で、市の名産物など10万円分の景品が一人に当たるお楽しみ抽選会もあり、大いに盛り上がりました。当選者は、「誘われて参加しましたが、まさか自分が」と、驚きと喜びを隠せない様子でした。

迫

迫海洋クラブで開講式



▲「もやい結び」を教わる児童たち。真剣に学びました

海洋スポーツの知識学ぶ

迫海洋クラブ(遊佐公男会長)では5月10日、迫B&G海洋センターで平成26年度迫海洋クラブの開講式を行いました。クラブ活動は、海洋性スポーツを通し、豊かな心の育成や自然の大切さを認識することが目的。本年度は地域の小学生7人が加入し、カヌーの操作方法やマリンスポーツに関する知識などを学びます。開講式では、紙芝居による海洋性スポーツの楽しさや水辺での安全な活動について学びました。この日はあいにくと風が強クボートへの乗船体験はできませんでしたが、クラブ員は今後の活動に期待を膨らませていました。

釣り体験で外来魚を駆除

豊里小・中学校の自然体験クラブでは6月10日、平沼沼で釣りを体験しました。釣り体験は町内の学校支援ボランティアの協力で実施。今回狙うのは、平沼沼で数が増えてきた外来魚のブルーギルです。雑食性が高く沼の生態系に悪影響を及ぼすため、駆除する目的もあります。釣り方の指導を受けた児童たちは急いで沼辺へ移動。思い思いのポイントで釣りを楽しんでいました。糸が絡まり苦戦する児童もいましたが、魚が釣れたときはとても喜んでいました。準備したバケツは魚でいっぱいになり、みんな釣果に満足した様子でした。

豊里小・中学校で自然体験

豊里



▲釣りを楽しむ児童たち。竿の組み立てや仕掛けの作り方も学びました

豊作願い、丁寧に植える

5月23日、登米小5年生が登米公民館隣にある小学校の学習田で田植えを体験しました。田植え体験は、自然体験やボランティア活動の社会体験などを通し、自ら課題を見付け、解決する能力を育成する「総合的な学習の時間」の一つとして実施。普段、はだして田んぼに入る機会がない児童たちは、転びそうになりながらも、豊作を願い一生懸命に苗を植えました。当日は晴天にも恵まれ、自然に親しむことができた児童たちは、「楽しかった」「またやりたい」と元気な声で話していました。

登米小児童が田植え体験

登米



▲泥にまみれながら、苗を真っ直ぐに植えていきます

米山

米山西幼稚園で自由保育参観



▲5月生まれの園児が友達にお祝いしてもらいました

歌やマジックで友達祝う

6月2、3の両日、米山西幼稚園(佐藤美子園長)で自由保育参観があり、園児の家族などが参観しました。3日に開催された参観では、5月生まれのお友達のお誕生会が開かれ、園児による歌やマジックでお祝いしました。司会進行も園児が務め、好きな食べ物や色を聞かれた園児は大きな声で質問に答えました。年少組の園児を参観した家族は「初めて参観しましたが、家にいる時とは違う姿が見られて新鮮でした。元気にみんな仲良く遊んでいたのが安心」と話していました。

東和

コウノトリが米川地区に飛来



▲二股川の河原にたたずむ特別天然記念物のコウノトリ(雌)

幸せを運んでくれるかな

国の特別天然記念物になっているコウノトリ1羽が5月12日頃から、米川地区で目撃されました。目撃した住民は、「立ち姿は鶴のようで、とてもびっくりした」と話していました。幸せを運んでくれるコウノトリの突然の飛来に、地域は歓迎ムードに包まれました。飛来したコウノトリは固体識別用足輪の色から、平成23年7月に兵庫県豊岡市を巣立った生後2歳11カ月の雌とみられます。平成26年4月には、千葉県いすみ市内でも確認されています。地域住民は、姿を消したコウノトリに「今度はついで来てほしい」と期待を寄せました。